

平成20年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）について②

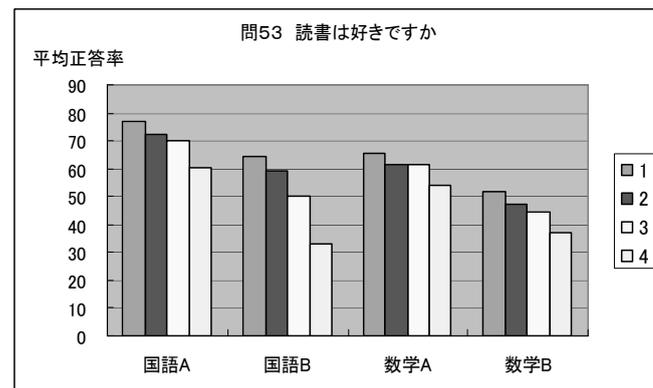
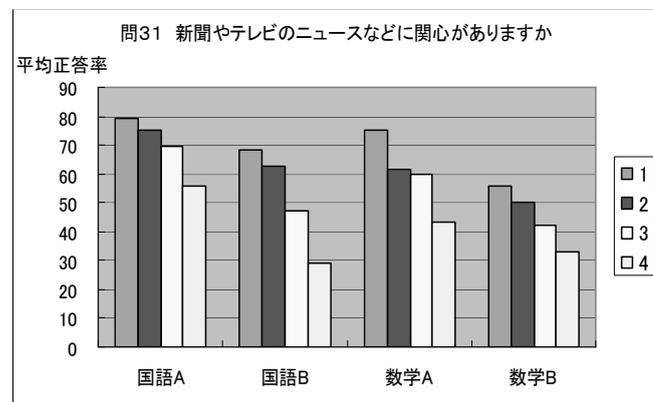
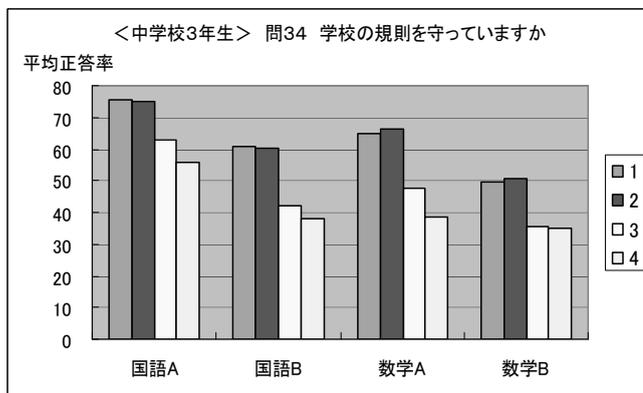
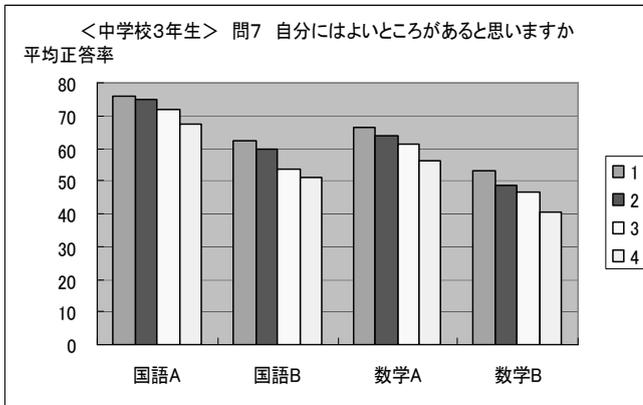
小学校、中学校共に
相関が見られる質問項目

中学校については
相関が見られる質問項目

12月の町報で「全国学力・学習状況調査」の結果概要をお知らせしましたが、今回は、特に生活習慣や学習環境などに関する質問紙調査との相関についてまとめました。

質問紙調査において、肯定的な回答をした児童生徒の方が、教科に関する調査の平均正答率が高くなる傾向が見られる項目があります。

- 〈回答の内容〉
- 1 肯定的
 - 2 どちらかといえば肯定的
 - 3 どちらかといえば否定的
 - 4 否定的



- 自分にはよいところがあると思いますか（問7）
- 家の人と学校での出来事について話をしていますか（問22）
- 今住んでいる地域の行事に参加していますか（問33）
- 学校のきまり・規則を守っていますか（問34）
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか（問40）

中学校3年生の「学校の規則を守っていますか」という項目では、肯定的またはどちらかといえば肯定的な回答をした生徒と、否定的またはどちらかといえば否定的な回答をした生徒の正答率の差が大きく、相関関係が強く見られます。特に数学Aにおいてその傾向が顕著です。

- 学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめていますか（問2）
- 新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか（問31）
- 包丁やナイフを使って調理をしたことがありますか（問44）
- テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強していますか（問49）
- 読書は好きですか（問53）

「新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか」という項目では、特に国語Bと数学Aにおいて、「読書は好きですか」という項目では、特に国語Bにおいて、正答率との相関関係が強く見られます。